

「けやき俳句の会」会報(第二百十一回)

令和三年四月七日

第二百十一回句会記録

★日時 令和三年四月七日

★場所 千葉中央コミュニティセンター

★参加者十七名 (総数五十一句)

★真樹先生投句 (○内の数字は得票数)

②不条理は不条理として春の真帆

重き扉押して菜の花畑と海

啓蟄やまだ咲き誇るシクラメン

- ③ころころと笑顔の少女桜餅 隼人
- ③浜風が散らす連翹遠汽笛 樹音
- ②春草の盛りて野辺の煌けり 真弓
- ②ものの芽や水玉きらら雨上がり 一華
- ②歩こうか佇み居るか花疲れ 清明
- ①菜飯など炊いて無聊を慰めり 真弓
- ①筑波山望む大橋春の川 真弓
- ①みちのくの春と一緒にリングオ来る 誠
- ①おぼろ月岸辺の波は博多帯 而今
- ①地に墮ちる雨を背負いて散る桜 夢城
- ①白魚をすくうわが指じつと見る 香魚
- ①山笑う孫七人の自己主張 紀泉
- ①笠森の芭蕉の句碑に花吹雪 蕉哉
- ①つくしんぼ行きつ戻りつ双子の子 藍愛
- ①馬酔木の花簪にして遠き日や 一華

真樹先生選句 (◎は特選)

◎⑥花散らす無常の風を追う有情 東洋

◎②房総の春満開を生きて今 蕉哉

◎①春眠や淵の深きの夢追って 香魚

⑥初つばめ蕎麦屋の跡にビルが建ち 藍愛

⑤真夜中にひとり言吐く浅蜷かな 隼人

③うめつくす細き流れの花筏 蕉哉

③老幹の桜葉若木にも 東洋

②我が狭庭花芽ぽこぽこほころびて 隼人

②山吹の色に染まりし池の鯉 樹音

②花の幹苔の芽吹きと共生し 盈光

①囀りの色とりどりに踊り出す 香魚

①春の野草どれも素直で旨そうで 一華

①名草の芽踏んでしまし躑る 東洋

【次回開催】

令和三年五月五日

三句提出

会員互選句

③白砂や虹ノ松原松露搔き 夢城

③せせらぎの藪の片隅露の臺 而今

③わが町もまほろばなるや八重桜 冬水